

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙・「みらい」
NO. 3747
17年4月18日(火)
・Fax 095-828-1953

行革30年の実態は

おはようございます。

今年には郵政民営化十年と国鉄分割民営化二十年である。この民営化は国の行政改革として強行された。歴史と結果を振り返る。

郵政民営化の表向きは行政改革であったが、本音のところはアメリカの求めで、郵便貯金と簡易保険がもつ三五百十兆円の資金を市場に開放させることであった。そして民営化後の十年間で事実、かんぽとゆうちょの資金は二百九十四兆円で五十六兆円が減った。



戦後の日本経済は、一九七十年代に成長が鈍化し、国も財政危機が語られ、八十一年に行政改革第一臨調が始まり、土光敏夫(元東芝社長で経団連会長)が会長につく。土光は「増税なき財政再建」を掲げ、国の赤字の三K(コメ、健保、国鉄)の赤字解消をめざすとした。マスコミは土光会長を「めざしを食べる質素な人」と持ち上げ、国鉄労働者には赤字の元凶として攻撃を強めた。

そして八七年四月、国鉄が分割民営化された。その間、三十万人いた職員は十万人が減らされ、最後まで民営化に反対した一〇四七名が解雇された。痛みは現場におき、とりわけ国鉄労働組合の活動家が狙い撃ちにされ、労組差別の解雇不当労働行為を認定)とで、国による戦後二度目のレッドパージとされた。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

組織は成長を求めて必ず膨張する。だが改革とは「身を削ること」である。その過程で組織や社会の最下層で働く人にのみ犠牲を強いて、当該を路頭に迷わせることが多い。改革とはそれでいいのだろうか。

アメリカのケネディ大統領は就任演説で「上杉鷹山の行政改革」に触れた。「なぜは成る、なせばならぬなにごとも」の例の言葉である。江戸時代の米沢十五万石の藩主・鷹山を明治時代に外国に紹介したのは内村鑑三だ。彼は「代表的日本人」という英語本で、鷹山の偉業を讃えた。鑑三自身は明治天皇の教育勅語の額に最敬礼をしなかつたとして不敬罪に問われ、一高(今の東大)の教職を追われたことでも有名だ。

上杉家は豊臣時代には、越後や会津を領地とする百二十万石の大大名であったが、関ヶ原の合戦で豊臣方につき、徳川家康から米沢十五万石に入封された。九割の減俸処分である。その苦しい財政事情の中、鷹山が七代目の藩主につく。

当時の米沢藩は二十万石(現在の額で二百億円)の借財を抱えていた。理由は、百二十万石時代の栄華のままの藩の警沢と、家臣(八千人)の首切りをしなかつたからだ。

鷹山の改革の思いは民からの信頼の回復であった。彼は「民の幸福は治者の幸福である」として、まず自ら節約を率先垂範する。家計で年収の一五〇〇両を二〇九両に、また女中を五〇人から九人に減らし、食事は一汁一菜としてこの生活を十六年間も続け借金を返済した。鷹山の行革はトップがまず痛みを自らにかけることであった。

現代だ。八一年に始まった行政改革から三十数年。現実はどうか。今この改革は新自由主義の基本とされ、規制緩和とその手法である。NTTやJTB、JR、JPN、大学、病院などの多くの国立、公営事業が民営化され、公務員減らしが進行した。

しかし、国の財政再建は実現していない。国の借金(赤字国債など)は一九八三年に百兆円であったが、現在は千兆円で十倍に増えた。赤字国債のGDP比では、二、五倍(二百四十八%)で世界一位であり、あの破産したギリシ

一方、国の稼ぎ(国内総生産(GDP))は八三年に二百七十八兆円だったが、今は五百兆円と二倍に増えた。一方、働く人の賃金はどうか。八五年の平均賃金では四〇歳で二十四万円だったが、二〇一五年では三十万円である。額面では増えているが、物価上昇などを差し引いた実質賃金では十六年連続で減少している。

中曽根首相と土光臨調が掲げた看板に偽りありなのだ。行革の鷹山がいう「民の幸福が最優先」という政治の基本を忘れ、金持ちのための政治が進行し、企業の内部留保は二百兆円を超え、株主配当はこの間で七倍に増えた。国の赤字を十倍に増やし、働く人には貧困と格差を招いた土光中曽根行革であり、やはり反対が正しかった。

最後に鷹山と同じころイギリスの経済学者のアダム・スミスが、古典経済学のバイブルとなる「国富論」を書いた。産業革命の直前だ。スミスは「神の見えざる手」による市場原理こそ、資本主義経済の原点」とする。新自由主義者がいつともいう規制緩和のお題目だ。しかしスミスはまた、「公債は資本による政府への貸付であるが・・・これはもっぱら植民地争奪戦争の戦費に充当される」とその危険性を指摘している。

国による所得の再配分という政治的な法の規制(社会法など)なしには、貧困と格差は必ず起き、またその結果、国民の怒りが排外主義的に爆発し、戦争もまた必ず起きる。

世界の歴史は今、これを現実のものとしている。トランプの戦争が今始まった。私たちはこれに踊ってはならない。国鉄や郵政改革に最後までたたかいた人たちは、この思いを強くしなければならぬ。

最後に鷹山と同じころイギリスの経済学者のアダム・スミスが、古典経済学のバイブルとなる「国富論」を書いた。産業革命の直前だ。スミスは「神の見えざる手」による市場原理こそ、資本主義経済の原点」とする。新自由主義者がいつともいう規制緩和のお題目だ。しかしスミスはまた、「公債は資本による政府への貸付であるが・・・これはもっぱら植民地争奪戦争の戦費に充当される」とその危険性を指摘している。

世界は貧困と格差を招いた土光中曽根行革であり、やはり反対が正しかった。

世界は貧困と格差を招いた土光中曽根行革であり、やはり反対が正しかった。

期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。めざせ、均等待遇。なくそう差別！ユニオンは労働法裁判に勝利するぞ！

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-山本, 2集-向井, 3集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 他支部・分会の役員へ。